

卒業論文

若者による「若者論」の批判的検討

2009年度入学

九州大学 文学部人文学科 人間科学コース
社会学・地域福祉社会学専門分野

2013年1月提出

要約

本論文では「若者論」について、特に若者の「下流」「意欲格差」と呼ばれるものについて若者自身の立場から批判的に検討する。これまでに論じられてきた「若者論」の多くは大人（若者ではない人々）によって論じられてきた。統計データや調査にもとづく議論がなされるようになってきたとはいえ、データの解釈等、まだまだ論者の見方に影響されている部分は大きいように思う。そこで今回は若者自身の立場から「若者論」を検討し直すことにした。

第1章では「若者論」と「若者」の定義を確認し、これまでの歴史について先行研究をもとにまとめた。「若者」の定義ははっきりと定まっていないため、ここでは若者人口を把握するために15～34歳と仮定した。

第2章では第1章でまとめた歴史の続きとなる、近年の「若者論」を紹介する。「若者論」と言っても内容はさまざまで、「最近の若者はキレやすい」といった印象論もあれば「最近の若者論は投票率が低い」という統計データから導き出された論もある。当然、現実の若者の姿を捉えているものもあれば、そうでないものもある。そこでまずは書籍化されている若者論を数冊取り上げ、「若者論」にどのような種類のものがあるのかを把握する作業を行った。それを通して、近年の「若者論」には若者の現状に満足する姿勢や意欲のなさを嘆いたものが多いことに気付いた。そこで本論文で中心に扱うものを若者の「下流化」とすることにした。

第3章では前章での気づきをふまえ、若者の「下流化」について論じた。同様の問題意識として、意欲格差も取り上げている。先行研究を見てみると、若者の「下流化」や意欲格差は学力（学歴）や職業と関連付けられることが多かった。

第4章では実際の「若者」にインタビュー調査を行った。学力や職業と関連付けて考えられることから、今回は若者の中でも、フリーターと大学生を対象にした。この2グループ間の職業選択へのこだわり、学習意欲などを比較した。

第5章では第4章での調査結果を分析し、若者の意欲格差に関して考察した。大学生とフリーターの意欲格差の小ささを指摘し、最後に本論文の反省と「若者論」に対する簡単なまとめを述べて、本論文を締めくくっている。

目次

はじめに	1
1 「若者論」とは何か	2
1.1 「若者論」の定義	2
1.2 「若者」について	2
1.2.1 「若者」が指す年齢層	3
1.2.2 総人口に占める「若者」の割合	3
1.3 若者論の歴史	4
1.4 各世代名称の説明	5
2 先行研究	7
2.1 アンケート調査、インタビュー調査などの結果から論じたもの	7
2.2 著者自身の経験や観察から論じたもの	13
2.2 小括	16
3 「若者」の「下流化」問題	18
3.1 「下流」の定義	18
3.2 問題の背景	18
3.3 「若者」と下流化の関連	20
3.4 三浦展の分析—「下流」の特徴	21
3.5 和田秀樹の分析—意欲格差の原因と影響	24
3.6 内田樹の分析—「下流志向」	28
3.7 小括	31
4 調査	32
4.1 大学生へのインタビュー調査	32
4.1.1 対象と方法	32
4.1.2 調査結果・分析	33
4.2 フリーターへの個別インタビュー	34
4.2.1 対象と方法	34
4.2.2 調査結果・分析	35
4.3 追加調査	36

5 考察..... 46

おわりに..... 48